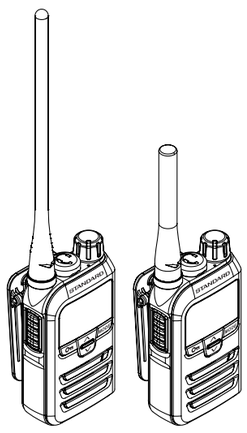
STANDARD




特定小電力トランシーバー

# FTH-314/-314L
# 取扱説明書

総務省技術基準適合品

**免許不要**

**単3形電池 1 本動作**

**47チャンネル**

交互通信用 20 チャンネル
中継通信用 27 チャンネル

**防水構造**

耐塵防噴流形 IP65
耐塵防浸形 IP67

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません。

FTH-314L はロングアンテナ仕様です。

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。


**開発製造：バーテックススタンダード LMR 合同会社**
a Motorola Solutions Company
URL : http://standard-radio.jp

EC153U00E



© 2019 バーテックススタンダードLMR合同会社
無断転載・複写を禁ず



Printed in Philippines


## 付属品

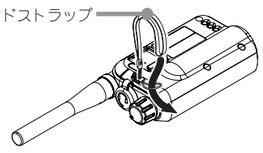
ご使用になる前に付属品をご確認ください。

ベルトクリップ

・取扱説明書（本書）
・安全上のご注意 / 保証書

## ハンドストラップの取り付け

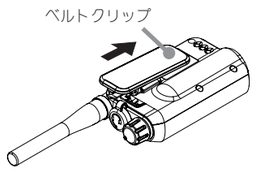
ハンドストラップは必要に応じて下記のように取り付けてください。



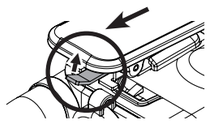

補足　丈夫な市販のハンドストラップを使用してください。

## ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをレールにあわせカチッと音がするまで、確実にスライドします。

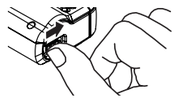



補足　ベルトクリップを外すときは、指を使わずにドライバー等でロックレバーを上げながらスライドして外します。指を使うと爪をはがしてケガの原因になることがあります。

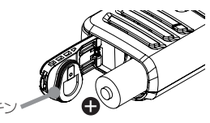


## 電池の入れかた

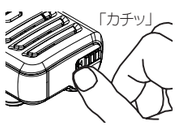
① ロックレバーを矢印方向にスライドし、ロックを解除してフタを開けます。



② オプションのニッケル水素電池（FNB-135）または市販の単 3 形アルカリ乾電池をマイナス（－）から入れます。
電池の極性（＋）（－）を注意してください。




③ フタを「カチッ」と音がするまで確実に押し込みロックします。

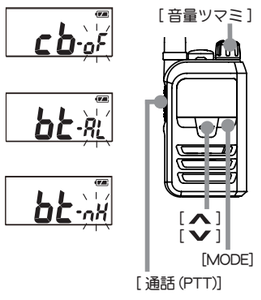



注意　防水性能を維持するため、フタをロックする前に防水パッキンのキズ、劣化、外れ、汚れ等が無いことを確認してください。

## バッテリーインジケーターの設定

初期値は市販のアルカリ乾電池を使用する“AL”に設定されていますが、オプションの FNB-135 を使用する場合は“nH”に設定します。

① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり電源を切ります。
② [MODE] を押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。
セットメニューの“cb-xx”が表示されます。
③ [MODE] を押して、“bt-xx”を選択します。
④ [ ∧ ] または [ ∨ ] を押して、使用する電池を選択します。
アルカリ乾電池の場合：“AL”
FNB-135 の場合：“nH”
⑤ [ 通話 (PTT)] を押します。
設定を確定し、セットメニューを終了します。




## 電池の使用時間と注意事項

### 電池の持続時間を延ばすには

使用できる時間の目安は次のとおりです。またスーパーセーブ機能（セットメニュー“bS-xx”参照）を使用すると、さらに電池の持続時間を延ばすことができます。

| 電池の種類 | スーパーセーブ機能 OFF | スーパーセーブ機能 ON |
|---|---|---|
| 単 3 形アルカリ乾電池（日本製の場合） | 約 30 時間 | 約 33 時間 |
| ニッケル水素電池（FNB-135） | 約 33 時間 | 約 36 時間 |

| 電池残量アイコン表示 | |
|---|---|
| | まだ使えます。 |
| | 少なくなりました。 |
| | 残りわずかです。 |
| | 電池を交換してください（FNB-135 はすぐに充電してください）。 |

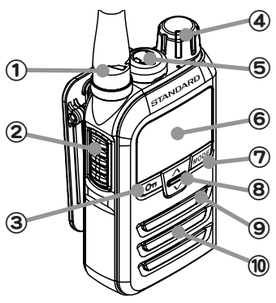
補足
○ 10 秒送信、10 秒受信、80 秒待ち受けの測定条件になります。上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。
○ スーパーセーブ機能を使用すると、受信中頭切れを起こすことがあります。

### 使用上の注意

市販の単 3 形アルカリ乾電池とオプションのニッケル水素電池（FNB-135）について
○ 使用せず保管しておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
○ 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池（FNB-135）またはアルカリ乾電池を取り外してください。
○ ときどき電池ケースの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。
端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
○ 電池を交換するときは、電源を切ってください。
○ ニッケル水素電池（FNB-135）または市販の単 3 形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。

オプションのニッケル水素電池（FNB-135）について
○ 当社指定以外の充電器や AC アダプターを使用しないでください。火災や故障の原因になります。
○ 初めて使用するときは、必ず充電してください。
○ 充電のしかたは、「急速充電器セット VAC-68」の取扱説明書をご覧ください。
○ 充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
○ 長期間保管した場合は電池容量が低下していることがあります。必ず充電してから使用してください。

## 各部の名前と機能




① **アンテナ**
電波法上、取り外しができない構造になっています。

② **通話（PTT）スイッチ**
押している間は通話、放すと待ち受けの状態になります。

③ **ロックキー**
約 1 秒長押しするとキーロックが動作します。再度約 1 秒長押しするとキーロックを解除します。

④ **電源スイッチ / 音量ツマミ**
右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチッと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。

⑤ **MIC/SP 端子**
オプションのスピーカー / マイクロホンなどを接続する端子です。

注意　オプションを使用しないときに、キャップをしっかり付けないと防水にはなりません。

⑥ **ディスプレイ**

| | |
|---|---|
| A. コールバック使用時に表示<br>OK・・・通話可能<br>圏外・・・通話不可能 | F. 電池残量表示 |
| B. 送信時に表示 | G. オートパワーセーブ表示<br>オートパワーセーブを ON にすると表示 |
| C. 受信時に表示 | H. 秘話モード時に表示 |
| D. ロック表示<br>キーをロックしたときに表示 | I. 通話中表示 |
| | J. チャンネル番号表示 |
| E. 中継チャンネル表示<br>中継チャンネル時に表示 | K. セットメニューの表示 |
| | L. グループコード表示 |

⑦ **MODE キー**
押すたびに通話モードが切り替わります。

⑧ **∧（アップ）/ ∨（ダウン）キー**
押すたびにチャンネルがアップ / ダウンします。

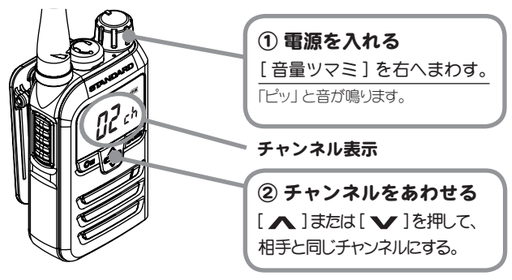
⑨ **マイク**

⑩ **スピーカー**

## 基本的な通話のしかた（ノーマルモード）

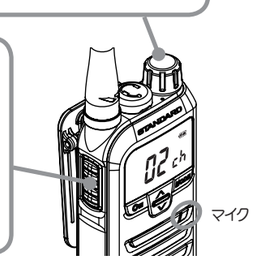
本機には、周囲の状況に応じて選べる3つの通話方法（ノーマルモード、グループモード、秘話モード）があります。

通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは基本となるノーマルモードの通話方法を説明します。




**③ 音量を調節する**
[ 音量ツマミ ] を 12 時の位置にあわせ、相手の音声を受信しているときに音量を調節する。

**④ 押しながら話す**
[ 通話 (PTT)] を押しながらマイクに向かって話す。
・[ 通話 (PTT)] を押すと「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに“送信”と“通話”が点灯してから話をしてください。
・[ 通話 (PTT)] を放すと、待ち受け状態になり相手の音声を聞くことができます。




補足　○ [ ∧ ] または [ ∨ ] を押すと、チャンネルは下記のように変わります。

注意
○ 電源を入れるとディスプレイに“Er”（エラー）が表示された場合は、外部マイクロホンが「正しく接続されていない」または「スピーカー（イヤホン）が断線している」可能性があります。
通話する前に「接続したスピーカーマイクロホンやタイピンマイクのねじ込み式プラグが確実に締め付けてあるか」または「スピーカー（イヤホン）が断線していないか」点検をしてください（セットメニュー SP-xx 参照）。
○ 相手の声が途切れて聞こえるときは、モニター機能を使用すると途切れなくなりますなります（“一時的にモニターをする”参照）。
○ 連続して通話できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに“通話”が点灯します。
3分間連続して通話し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウンが表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の2秒間は [ 通話 (PTT)] を押しても「プープープーッ」と警告音が鳴り送信できません。
○ 他局の信号を受信しているときは、送信できません。
ディスプレイに“受信”が点灯中、[ 通話 (PTT)] を押しても「プープープーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。ただし“通話”が点灯している間に [ 通話 (PTT)] を押すと送信します。

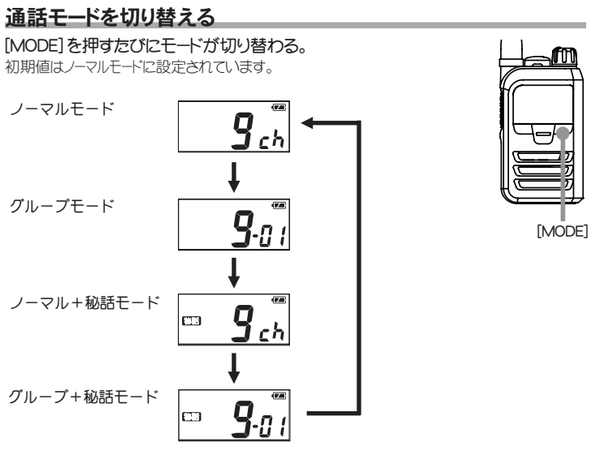
## 通話モードの切り替えかた

通話を行うモード（通話モード）として、次の 3 通りの方法があります。
周囲の状況に応じて使い分けてください。

ノーマルモード ➠ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。
グループモード ➠ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき。
チャンネル番号とグループコードが一致すると通話ができます。
秘話モード ➠ 他の人に通話を聞かれたくないとき。

### 通話モードを切り替える

[MODE] を押すたびにモードが切り替わる。
初期値はノーマルモードに設定されています。

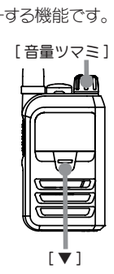



## 一時的にモニターをする

スケルチ機能を OFF にして、受信信号の状態を一時的にモニターする機能です。

**■モニターにする**
① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり、電源を切ります。
② [ ▼ ] を押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。

**■モニターを解除する**
一度電源を切り、再度 [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。

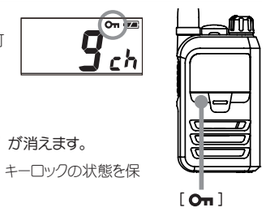



## キーをロックする

誤ってキー（[ ∧ ]、[ ∨ ]、[MODE]）に触れても設定が変わらない、さらにディスプレイを非表示にする設定※にすることができます。
※：電池残量アイコンは表示されます。

### キーのみロックする

[ On ] を約 1 秒以上押します。
「ピピッ」と鳴ってキーがロックされ、“On”が点灯します。



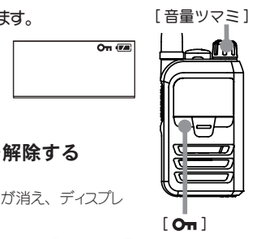

**■キーロックを解除する**
再度 [ On ] を約 1 秒以上押します。
「ププッ」と鳴ってキーのロックが解除され、“On”が消えます。

補足　キーロックの状態で電源を切った場合、キーロックの状態を保持します。

### キーロックと共にディスプレイを非表示にする

ショートカットキーで設定する、セットメニュー（“hd-xx”）で設定する 2 種類の方法があります。

① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり電源を切ります。
② [ On ] を押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。
“On”が点灯してキーがロックされ、約 2 秒後にディスプレイの表示が消えます。



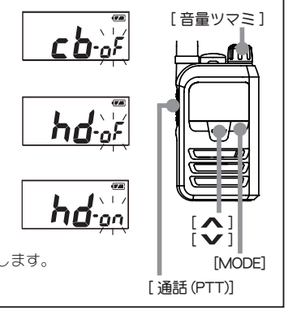

**■キーロックとディスプレイ非表示を解除する**
再度 [ On ] を約 1 秒以上押します。
「ププッ」と鳴ってキーのロックが解除されて“On”が消え、ディスプレイが表示されます。

補足　キーロックの状態で電源を切った場合、キーロックの状態を保持しますが、ディスプレイの非表示機能は保持しません。

あらかじめセットメニューの“hd-xx”を“ON”に設定します。
[ On ] キーを約 1 秒以上押したときに、キーロックと共にディスプレイを非表示にすることができます。再度 [ On ] キーを約 1 秒以上押すと解除されます。

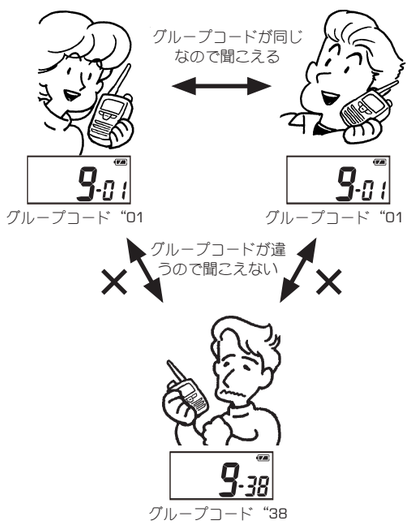
補足　このセットメニューが“ON”のときは、キーロックの状態で電源を切った場合でも、**恒常的**にキーロックとディスプレイの非表示機能は保持されます。

① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり電源を切ります。
② [MODE] を押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。
セットメニューの“cb-xx”が表示されます。
③ [MODE] を押して、“hd-xx”を選択します。
④ [ ∧ ] または [ ∨ ] を押して、“ON”に選択します。
⑤ [ 通話 (PTT)] を押します。
設定を確定し、セットメニューを終了します。




## グループモード

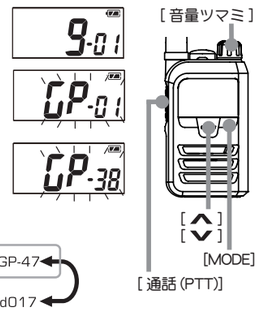
「同じチャンネルで、他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループコードに設定しておくと仲間同士の音声だけが聞こえます。

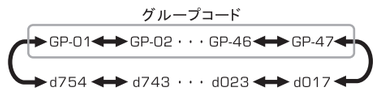



### 設定のしかた

運用する前に仲間同士で同じグループコードに設定します。
初期値は“01”に設定してあります。

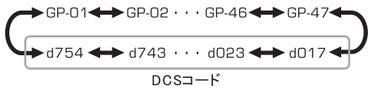
① [MODE] を押してグループモードにします。
現在設定しているグループコードが表示されます。
② [MODE] を押しながら [ ∧ ] を押します。
グループコードが点滅します。
③ [ ∧ ] または [ ∨ ] を押してグループコードを選びます。
GP-01 ～ GP-47（47 通り）から選択します。




④ [ 通話 (PTT)] を押します。
設定が終了します。

補足　グループコード（47 種類）が不足した時など、グループコードに替えて、108 種類の DCS コード（d017 ～ d754）を使用することができます。




注意　グループコードが 38 通りの旧機種と通話する場合は、GP-1 ～ GP-38 以内で設定してください。それ以外のグループコードを使用すると通話できなくなります。

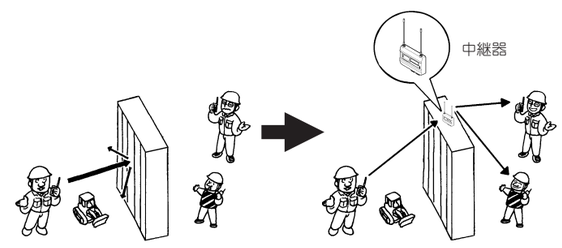
### 通話のしかた

“基本的な通話のしかた”と同様に行います。

補足　他人の通話が聞こえる場合は、グループコードを変更してください。

## 中継機能 ～通話距離をのばすには～

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、当社対応の中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。
なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店にお問い合わせください。

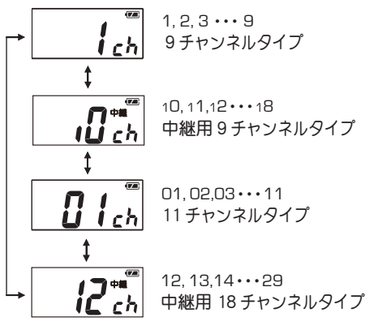



注意　中継器を介した場合は、下記の機能を使用することができません。
・コールバック機能
・セレコール機能
・オートチャンネルセレクト機能
・クローン機能

### 中継機能を設定する

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル（合計 27 チャンネル）が追加されます。

① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり、電源を切ります。
② [ ∧ ] を押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
③ [ ∧ ] または [ ∨ ] を押すたびに、チャンネル番号が変わります。




**■設定を解除する**
① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり電源を切ります。
② [ ∧ ] を押しながら音量ツマミを右にまわし、電源を入れます。

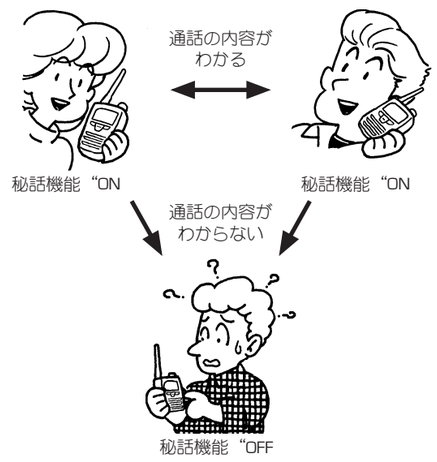
### 通話のしかた

① [ ∧ ] または [ ∨ ] を押して、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせます。
② “基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

補足
○ グループモードを使用することができます（中継器と同じグループコードにあわせてください）。
○ [ 通話 (PTT)] を押すと「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに“通話”が点灯します。“通話”が点灯中に話をすると、お互い音声が途切れず交信することができます。
交信中“通話”が消灯したら、再度 [ 通話 (PTT)] を押して“通話”が点灯してから話をしてください。
○ 当社指定の中継器のみ使用可能です。

## 秘話モード

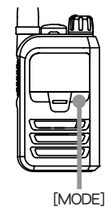
秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。
秘話モードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することができます。




注意
○ 仲間同士以外でも、同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
○ 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。
○ FTH-314/-314L 以外のトランシーバーと通話をすると、音色が異なる場合があります。

### 秘話モードに切り替える

“秘話”が点灯するまで、[MODE] を何度か押します。




### 通話のしかた

“基本的な通話のしかた”と同様に行います。

# セットメニューで行う機能

## セットメニューの一覧表

| 表示 | 項　目 | 設定値※（太字：初期値） | 参照 |
|---|---|---|---|
| cb -xx | コールバック機能<br>“ON”に設定すると、グループモード時にコールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコンで常時チェックしながら通話ができます。 | **OFF**/ON | A |
| Sc-xx | スキャン機能<br>“ALL”に設定すると、自動でチャンネルを切り替えながら信号を探します。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンを開始します。 | **OFF**/ALL | B |
| bP-xx | ビープ音の ON/OFF<br>キーやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。ビープ音が耳障りなときは OFF に設定してください。 | **ON**/OFF | – |
| tb-xx | 送信ビープ音の ON/OFF<br>“ON”に設定すると、[ 通話 (PTT)] を押して送信を始めた際に電子音が鳴り、送信状態になったことを音で確認することができます。また、“ON”に設定することで「tt」の項目が追加されます。 | **OFF**/ON | – |
| tt-xx | 送信ビープ音の音量調整<br>dF は音量と「tb」のビープ音を連動で音量ツマミにて調整します。1～ 15 に設定すると音量ツマミに関係なく設定された音量でビープが鳴ります。数字が大きくなるほど音量が大きくなります。 | **dF**/1 ～ 15 | – |
| LP-xx | 照明ランプの設定<br>キーを押したとき 2 秒間ディスプレイの照明が点灯します。“OFF”にすると照明は常時消灯します。 | **2**/OFF | – |
| AP-xx | オートパワーセーブの設定<br>“ON”に設定するとディスプレイに ⏻ が点灯し、2時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にします。1 分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。 | **OFF**/ON | – |
| cS-xx | コールサイントーン機能<br>中間同士で違う番号のコールサインを設定しておくと、電子音の回数で誰から呼ばれたのかコールサインとして判別することができます。 | **1** ～ 5 | C |
| EG-xx | 外部マイク感度の設定<br>外部マイクの感度を調整します。数字が大きくなるほど感度は上がります。“AU”は音声の大小に応じて自動で適切な感度を調整します。 | 1/**2**/3/AU | D |
| IG-xx | 内部マイク感度の設定<br>内部マイクの感度を調節します。数字が大きくなるほど感度は上がります。“AU”は音声の大小に応じて自動で適切な感度を調整します。 | 1/**2**/3/AU | D |
| cP-xx | コンパンダー機能<br>“ON”に設定すると、相手が話しているときに聞こえる「サー」というバックノイズを軽減し、相手の音声を聞き取りやすくします。<br>**補足**：相手のトランシーバーも、コンパンダー機能を ON に設定してください。 | **OFF**/ON | – |
| tP-xx | 送信禁止機能<br>“ON”に設定すると、[ 通話 (PTT)] を押しても「ブーブー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに “**Err**” と表示されて送信できません。受信専用で使用するときに設定します。 | **OFF**/ON | – |
| Ph-xx | PTT ホールド機能<br>[ 通話 (PTT)] を押している間送信し、放すと待ち受けの状態になります。<br>“ON”に設定すると [ 通話 (PTT)] を一度押すと連続送信状態（最大3分間）となり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付き PTT スイッチとして動作します（外部マイクの [ 通話 (PTT)] では、この機能は動作しません）。<br>**補足**：送信が 2 分 30 秒経過するとディスプレイにカウントダウンを開始して、10 秒前に「ピピピッ」と予告音が鳴り、3 分経過すると待ち受けに戻り約 2 秒間「ブーブーップーッ」と警告音が鳴り送信できません。送信したい場合は、警告音が鳴り終わってから [ 通話 (PTT)] を押してください。<br>[MODE] を押しながら [ 通話 (PTT)] を押すと、自動送信復帰機能が動作します。基本動作は補足文記載内容と同様ですが、連続送信が3分経過すると一旦待ち受け状態になり、そのチャンネルで他に使用者がいなければ、約2秒後に自動で送信状態に戻ります。この動作を自動で繰り返します。自動送信復帰機能が動作しているときには、通話アイコンが点滅しています。 | **OFF**/ON | E |
| oc-xx | VOX 機能の ON/OFF<br>VOX 機能を使用するときは“ON”に設定します。“ON”に設定すると「oL」と「or」の項目が追加されます。 | **OFF**/ON | F |
| oL-xx | VOX 感度の設定<br>数字が大きくなるほど送信状態になるときの感度が上がります。 | 1 ～ **9** ～ 15 | F |
| or-xx | VOX 遅延時間の設定<br>話をやめてから待ち受け状態に戻るまでの時間を設定します。 | 1 ～ **5** ～ 15（0.1 秒間隔） | F |
| Ac-xx | オートチャンネルセレクト機能<br>誰も使用していないチャンネルを自動で探し出し、相手局と交信することができます。 | **OFF**/ON | G |
| hE-xx | 音質切替え機能<br>高域をカットした音声のみを強調した音質で受信します。相手がバックノイズの多い場所などで運用しているときに効果を発揮します。“1”に設定すると、高域が効いたメリハリのある音質で受信します。 | 1/**2** | – |
| Sq-xx | スケルチレベルの調整<br>信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズ（「ザーッ」音）を消すことができます。数字が大きいほどレベルが高くなります。<br>**補足**：スケルチレベルを上げすぎるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。 | **1** ～ 4 | – |
| EP-xx | オーディオアクセサリーの設定<br>“2”に設定すると、スピーカーマイクロホンやタイピンマイクのスピーカー（またはイヤホン）が断線したときに、応急用としてお手持ちのスマートホン用イヤホンを使用することができます。通話する場合は、トランシーバーのマイクで PTT スイッチを押して送信してください。<br>**注意**：全てのイヤホンが使用できる保障はございません。あくまでも応急用ですので、弊社オプションのご使用を推奨します。<br>通常は“1”に設定し、使用してください。 | **1**/2 | – |
| SP-xx | イヤホン断線チェック<br>接続しているオプションのスピーカーマイクロホンやタイピンマイクのスピーカー（またはイヤホン）が断線している場合、本機の電源を入れたときに “**Er**” とディスプレイに表示し警告します。 | OFF/**ON** | – |
| SL-xx | セレコールの呼び出し設定<br>セレコール機能を使用するときは“ON”に設定します。“ON”に設定すると「Si」「SG」「Sb」の項目が追加されます。 | **OFF**/ON | H |
| Si-xx | セレコールの ID 設定<br>個別呼び出し用の ID を設定します。 | **01** ～ 99 | H |
| SG-xx | セレコールのグループ設定<br>グループ呼び出し用の ID を設定します。 | **G0** ～ G9 | H |
| Sb-xx | セレコールの着信音設定<br>着信音のビープを設定します。<br>OFF: ビープ音 OFF、1：パターン1、2：パターン2、3：連続 | **OFF**/ 1～ 3 | H |
| PS-xx | ワンタッチボリュームの設定<br>“ON”に設定すると、音量ツマミをまわさずに [ On ] キーを短押しすることでワンタッチで音量を一時的に下げることができます。再度押すと解除されます。 | **OFF**/ON | I |
| bS-xx | スーパーセーブ機能の設定<br>“ON”に設定すると、待ち受け状態で約2秒間キー操作がないと電池パックの消耗を防ぐ機能が動作します。信号を受信時またはキー操作を行うとセーブ機能は解除されます。<br>**補足**：“ON”に設定すると、受信中頭切れを起こすことがあります。 | **OFF**/ON | 表面 |
| bt-xx | バッテリーインジケーターの設定<br>初期値は市販のアルカリ乾電池を使用する“AL”に設定されています。オプションの FNB-135 を使用する場合は“nH”に設定します。 | **AL**/nH | 表面 |
| hd-xx | キーロック・ディスプレイ非表示設定<br>“ON”に設定すると、ロックキーを押したとき、キーロックと共にディスプレイを非表示にすることができます。 | **OFF**/ON | 表面 |
| cL-xx | クローン機能<br>送り側に設定してある内容をワイヤレスで複数台一斉にコピーすることができます。 | **OFF**/ON | J |

※：設定値ディスプレイ表示“OFF”→“oF”，“ON”→“on”，“ALL”→“AL”

## セットメニューの操作

各セットメニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

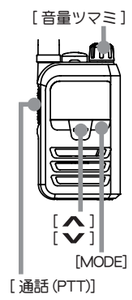
① [ 音量ツマミ ] を左にまわしきり電源を切ります。

② [MODE] を押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。
セットメニューの“cb-xx”が表示されます。

③ [MODE] を押すたびに、セットメニューの項目が切り替わります。
設定したいメニューを選択します。
例：“Sc-xx”を選択
[ On ] を押すたびに、セットメニューの項目が後退します。

④ [ ∧ ] または [ ∨ ] を押して、点滅している設定値を選択します。

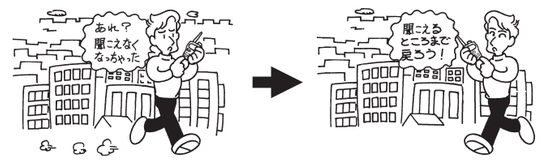
⑤ [ 通話 (PTT)] を押します。
設定を確定し、セットメニューを終了します。




補足　[ 通話 (PTT)] 以外に電源を切っても、設定を確定してセットメニューを終了することができます。

## A：コールバック機能（cb-xx）～通話可能か常時チェックしたい～

グループモード時に、コールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」、電子音とアイコンで常時チェックしながら通話ができます。




通話できない時は“圏外”が点灯　　通話できる時は“OK”が点灯

| | 状 況 | 電子音 | アイコン表示 |
|---|---|---|---|
| 通話可能 | 相手と通信できる範囲にいる | 約1分後に一度だけ「ピピッ」と鳴る | 電子音が鳴った後 **OK**” が点灯する |
| | 相手の電源が入っている | | |
| 通話不可能 | 相手と通信できない場所にいる | 約1分後に一度だけ「ププッ」と鳴る | 電子音が鳴った後 **圏外**” が点灯する |
| | 相手の電源が切れている | | |

### コールバック機能を使用する（cb-xx）

あらかじめ [MODE] を押してグループモードにしてください。
仲間同士で決めた「グループコード」と「チャンネル番号」が設定されているか確認し、下記のセットメニュー (cb) を“on”に設定します。

| | |
|---|---|
| oF（初期値） | コールバック機能を OFF にします。<br>**圏外**”“**OK**”は消灯します。 |
| on | コールバック機能を ON します。<br>相手局と通話可能か定期的に自動で送信してチェックします。通話可能時“**OK**”、通話不可能時 **圏外**” が点灯します。 |

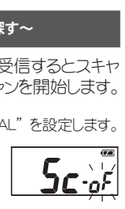
補足
○ コールバック機能が動作中、通話することも可能です。「基本的な通話のしかた」と同様に通話できます。
○ 同じチャンネルとグループコードが他の使用者に使われているときは、仲間同士で他のチャンネルとグループコードに切り替えてください。
○ 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態（ディスプレイに“**受信**”が点灯）になり、通話できません。

## B：スキャン機能（Sc- xx）～受信信号を探す～

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

スキャン機能を使用する場合は、あらかじめ下記のセットメニュー (Sc) で“AL”を設定します。

| | |
|---|---|
| oF（初期値） | スキャン機能を OFF にします。 |
| AL | 全チャンネルをスキャンします。 |

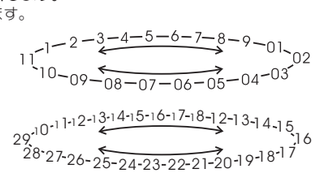



### スキャン機能を使用する

#### スキャンを開始する

[ ∧ ] または [ ∨ ] を約 1 秒以上押します。
チャンネルをスキャンすることができます。

補足　スキャンを開始したチャンネルからスキャンします。




中継機能用チャンネルが追加された場合、中継機能用チャンネルからスキャンを開始すると中継機能用チャンネルのみスキャンします。

#### スキャン方向を変更する

スキャン中に [ ∧ ] または [ ∨ ] を押します。
スキャン方向を変えることができます。

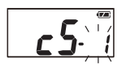
#### スキャンを停止する

[MODE] または [ 通話 (PTT)] を押します。

## C：コールサイントーン機能の設定と使用方法（cS-xx）～相手をコールサインで呼び出したい～

本機にコールサインを設定することができます。
最大 5 局まで設定することができ、初期値は 1 に設定されています。
仲間同士で違う番号のコールサインを設定しておくと、自局に設定した電子音のコールサインが相手局に送出され、誰から呼ばれたのか電子音の回数でコールサインとして判断することができます。

| 数字 | 電子音 |
|---|---|
| 1（初期値） | ピロロッ |
| 2 | ピロロッ ピロロッ |
| 3 | ピロロッ ピロロッ ピロロッ |
| 4 | ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ |
| 5 | ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ |




### 相手を呼び出す

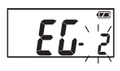
送信中に [MODE] を押します。
押している間だけ設定したコールサインを相手に送出することができます。

## D：マイク感度の設定（EG- xx /IG- xx）～外部マイク / 内部マイクの感動を設定する～

### 外部マイク感度の設定（EG-xx）

外部マイクのマイク感度を設定します。

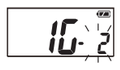
| | |
|---|---|
| 1 | 外部マイクの感度 - 小 |
| 2（初期値） | 外部マイクの感度 - 標準 |
| 3 | 外部マイクの感度 - 大 |
| AU | 音声の大小に応じて自動で適切な感度を調整します。 |




### 内部マイク感度の設定（IG-xx）

トランシーバー本体に内蔵してあるマイクの感度を設定します。

| | |
|---|---|
| 1 | 内部マイクの感度 - 小 |
| 2（初期値） | 内部マイクの感度 - 標準 |
| 3 | 内部マイクの感度 - 大 |
| AU | 音声の大小に応じて自動で適切な感度を調整します。 |




## E：PTT ホールド機能（Ph- xx）～ [ 通話 (PTT)] スイッチの動作を設定する～

[ 通話 (PTT)] スイッチを押したときの動作を設定します。

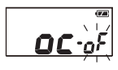
| | |
|---|---|
| oF（初期値） | [ 通話 (PTT)] を押している間送信し、放すと待ち受けの状態になります。 |
| on | [ 通話 (PTT)] を一度押すと連続送信状態（最大3分間）となり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付き PTT スイッチとして動作します（外部マイクの [ 通話 (PTT)] では、この機能は動作しません）。<br>**補足**：送信が 2 分 30 秒経過するとディスプレイにカウントダウンを開始して、10 秒前に「ピピピッ」と予告音が鳴り、3 分経過すると待ち受けに戻り約 2 秒間「ブーブーップーッ」と警告音が鳴り送信できません。送信したい場合は、警告音が鳴り終わってから [ 通話 (PTT)] を押してください。<br>[MODE] を押しながら [ 通話 (PTT)] を押すと、自動送信復帰機能が動作します。<br>基本動作は補足文記載内容と同様ですが、連続送信が3分経過すると一旦待ち受け状態になり、そのチャンネルで他に使用者がいなければ、約2秒後に自動で送信状態に戻ります。この動作を自動で繰り返します。自動送信復帰機能が動作しているときには、通話アイコンが点滅しています。 |

## F：VOX 機能の設定と使用方法（oc-xx/oL-xx/or-xx）～音声で自動送信をする～

PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

注意
○ スピーカーから音が出ているときは、VOX 機能は動作しません。
○ この VOX 機能は本機単体で使用するもので、オプションの外部マイクロホンでは使用できません。
○ キーや音量ツマミを操作したときの振動がマイクに伝わり、誤送信することがあります。
○ 話しはじめに音声の頭切れを起こすことがあります。
○ VOX 感度を上げると周囲の音で誤送信することがあります。
○ PTT ホールド機能と同時に使用することはできません。

| | |
|---|---|
| oF（初期値） | VOX 機能を OFF にします。 |
| on | VOX 機能を ON にします。<br>ON に設定すると「oL」と「or」の項目が追加されます。 |




### 通話のしかた

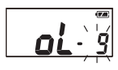
本機の内蔵マイクに向けて、話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

### ■ VOX 感度を設定する（oL-xx）

送信状態になるときの感度を設定します。

注意　周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて（数値を小さくする）ください。

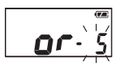
| | |
|---|---|
| 1 ～ 9（初期値）～ 15 | VOX 感度を設定します。 |




### ■ VOX 遅延時間を設定する（or-xx）

話をやめてから待ち受け状態に戻るまでの時間を、約 0.1 秒間隔で 0.1 秒（設定値“1”）～ 1.5 秒（設定値“15”）の間で設定することができます。

| | |
|---|---|
| 1 ～ 5（初期値）～ 15 | VOX 遅延時間を設定します。 |



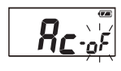

## G：オートチャンネルセレクト機能の設定と使用方法（Ac-xx）～空チャンネルを自動で探す～

[ 通話 (PTT)] を押すたびに、誰も使用していないチャンネルを自動で探し出し、相手局と交信することができます。

補足
自分と相手のトランシーバーを同じ設定にしてください。
・グループモードに設定し、グループコード（または DCS コード）を合わせる。
・オートチャンネルセレクト機能を ON する。

注意　オートチャンネルセレクト機能は下記の機能と同時に使用することはできません。オートチャンネルセレクト機能が優先されます。
・スキャン機能
・コールバック機能

| | |
|---|---|
| oF（初期値） | オートチャンネルセレクト機能を OFF にします。 |
| on | オートチャンネルセレクト機能を ON にすると、チャンネル表示が“AU”に変わります。 |




### オートチャンネルセレクト機能で交信する

[ 通話 (PTT)] を押して、一呼吸おいてから通話します。
押した瞬間に、誰も使用していないチャンネルを自動的に探します。

## H：セレコール機能（Si- xx /SG- xx /Sb- xx）～特定の局を呼び出したい～

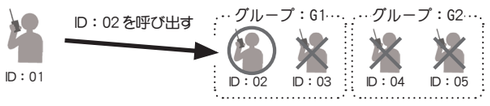
セレコールは 3 種類の呼び出しができます。

◎ 個別呼び出し（01 ～ 99）
01 ～ 99 から選択した相手局のみ呼び出すことができます。
◎ グループ呼び出し（G0 ～ G9）
0 ～ 9 から選択したグループのみ呼び出すことができます。
◎ 全局一斉呼び出し（ALL）
一斉に呼び出すことができます。

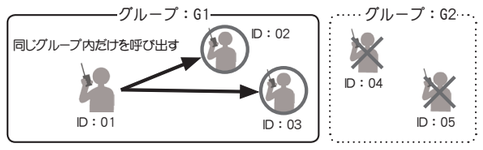
補足
○ 個別とグループで呼び出されたときは、着信音で知らせることができます（セットメニュー Sb-xx）。
○ 機能を使用する場合は、あらかじめ仲間同士でセレコール ID とグループナンバーの設定が必要です。
○ グループモードや秘話モードでもセレコール機能を使用することができます。
○ セレコール機能が対応していないトランシーバーで、同じチャンネルを待ち受けしても呼び出しをすることはできません。

注意
○ 電波の弱い場所やノイズの多いところでは、セレコール機能が動作しない場合があります。
○ FTH-307/-308/-508 等と個別呼び出しを行う場合は、1 ～ 20 までの ID を設定してください。
○ セレコール機能は下記の機能と同時に使用することはできません。セレコール機能が優先されます。
・コールバック機能　・VOX 機能　・オートチャンネルセレクト機能
・コール機能　・スキャン機能

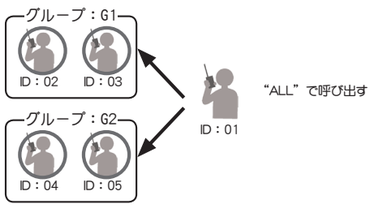
### 特定の相手局だけを呼び出す（個別）




### 自局と同じグループだけを呼び出す（グループ）




### 全局を一斉に呼び出す（一斉）



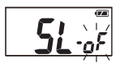

### セレコール機能を使用する前の準備

セレコール機能を使用する前に、下記の準備をしてください。

#### セレコール機能を使用する（SL- xx）

セットメニュー（SL-xx）でセレコール機能を“on”に設定します。

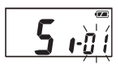
| | |
|---|---|
| oF（初期値） | セレコール機能を OFF にします。 |
| on | セレコール機能を使用する場合は ON に設定します。 |




#### 自局のセレコール ID を設定する（Si- xx）

01 ～ 99 から各トランシーバーに違う ID を設定します。

| | |
|---|---|
| 01（初期値）～ 99 | 自局のセレコール ID を選択します。 |




#### 自局のグループを設定する（SG- xx）

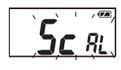
G0 ～ G9 から自局グループの ID を設定します。

| | |
|---|---|
| G0（初期値）～ G9 | 自局のグループを選択します。 |

### 呼び出しをする

① チャンネルスイッチをまわして、相手局と同じチャンネルにあわせます。

② [MODE] を押しながら [ ∨ ] を押します。
ディスプレイに“SCAL”が点滅し、セレコール選択画面になります。

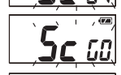



→ 01 ～ 99 ↔ G0 ～ G9 ↔ ALL ←
[∧]または[∨]

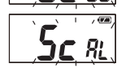
③ [ ∧ ] または [ ∨ ] で呼び出し方法を選択します。

個別で呼び出す・・・・・　呼び出したい相手局のセレコール ID（Sc 01 ～ Sc 99）を選択します。

グループで呼び出す・・・　呼び出したいグループ（Sc G0 ～ Sc G9）を選択します。



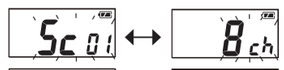

全局を呼び出す・・・・・　Sc AL を選択します。



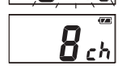

④ 上記のいずれかが表示されている時に、[ 通話 (PTT)] を押しながら相手局を呼び出します。

### 呼び出しを受けたとき

個別呼び出しとグループ呼び出しは「着信音が鳴る」※とともに、ディスプレイにセレコール表示とチャンネルが交互に点滅着信を知らせます。

個別呼び出しを受けたとき　 


グループ呼び出しを受けたとき　

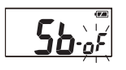

全局呼び出しを受けたとき（変化しない）　 


※：セレコール着信時にディスプレイで着信を知らせる以外に、セットメニュー Sb- xxの設定により着信音で知らせることができます。

### ■セレコール着信音を設定する（Sb- xx）

選択時に着信音が鳴り確認しながら設定することができます。

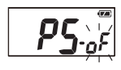
| | |
|---|---|
| oF（初期値） | 着信音を OFF にします。 |
| 1 | ビープ：パターン 1 |
| 2 | ビープ：パターン 2 |
| 3 | ビープ：連続 |




## I：ワンタッチボリュームの設定（PS-xx）～ワンタッチで音量を下げる～

セットメニュー (PS) により、音量ツマミをまわさずに [ On ] を短押しすると、ワンタッチで音量を一時的に下げることができます。

| | |
|---|---|
| oF（初期値） | ワンタッチボリューム機能は無効になります。 |
| on | [ On ] の短押しにワンタッチボリューム機能が割り付けされます。 |




### ■ワンタッチボリューム機能を使用する

[ On ] を短押しします。
ワンタッチボリュームの機能が動作中、ディスプレイ表示が点滅します。

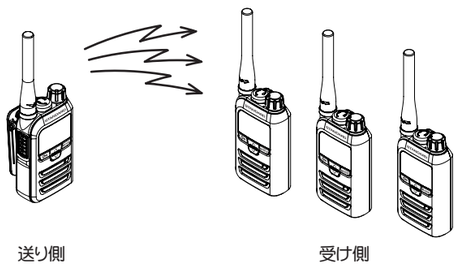
### ■ワンタッチボリューム機能を解除する

いずれかの方法で解除します。
・[ On ] を短押しします。
・電源をオフにします。
・3 分経過すると自動で解除されます。

## J：クローン機能（cL-xx）～同じ設定に複製する～

送り側に設定してある内容をワイヤレスで複数台一斉にコピーすることができます。

コピーできる設定内容は下記のようになります。
◎ 現在設定しているチャンネル / グループコード /DCS コード
◎ 現在設定している通話モード（ノーマル / グループ / 秘話）
◎ セットメニューの設定内容



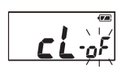

注意
○ 雑音の多い場所でクローン機能を行うと正常にコピーできない場合があります。
○ 送り側と受け側を 1 m以内に近づけた状態で、クローンを行ってください。
○ クローン機能は FTH-314/-314L 同士のみ使用することができます。

### クローン機能を設定する

#### 1　受け側を設定する

セットメニュー（cL-xx）でクローン機能を“ON”に設定します。

| | |
|---|---|
| oF（初期値） | クローン機能を OFF にします。 |
| on | クローン機能を ON にします。<br>ディスプレイに“CCcL”が表示されます。 |




#### 2　送り側を設定する

① 受け側と同様、セットメニュー（cL-xx）でクローン機能を“ON”に設定します。

② [ 通話 (PTT)] を押します。
データーが送出されます。

補足
○ 受け側は正常にコピーされると「ピッ」と音がして、コピーされたチャンネルをディスプレイに表示します。
○ “CCcL”のまま変化しない場合は、再度 [ 通話 (PTT)] を押すと送り側からデーターが送出されます。

③ 電源を切ります。
セットメニューの設定を終了します。受け側も電源を切ります。

補足　電源を OFF にすることで、クローン機能は OFF になりますので、セットメニューで OFF にする必要はありません。

## 正常に動かないとき　～ファクトリーリセット～

スイッチを押しても反応しないときや、別紙の『故障かな？と思うまえに...』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

**ファクトリーリセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。**

① 一度、[ 音量ツマミ ] を左にまわしきり、電源を切ります。

② [ ∧ ]、[ ∨ ]、[MODE] を同時に押しながら [ 音量ツマミ ] を右にまわし、電源を入れます。
ディスプレイに“**Fr**”が表示されます。

③ [ 通話 (PTT)] を押します。
工場出荷時の“初期値”に戻ります。

## オプション一覧表

| 品 名 | 型 番 |
|---|---|
| 防浸型スピーカーマイクロホン | MH-73A4B※ |
| スピーカーマイクロホン | MH-57A4B※ |
| タイピン型イヤホンマイク | MH-62A4B※ |
| イヤホンアダプター | CT-101※ |
| アンテナバンド（赤色）12 個入り | S8003159 |
| アンテナバンド（青色）12 個入り | S8003161 |
| アンテナバンド（黄色）12 個入り | S8003163 |
| アンテナバンド（橙色）12 個入り | S8003165 |
| アンテナバンド（緑色）12 個入り | S8003167 |
| ニッケル水素電池 | FNB-135 |
| 急速充電器セット | VAC-68 |

※：ねじ込み式の防水プラグを使用しているため、確実に締め付けてご使用ください。

注意　締め込みが不十分な場合、接触不良を起こし通話できないことがあります。また、防水性能を確保することもできません。

カタログ及びその他の最新情報はホームページ http://www.standard-radio.jp を参照してください。

## 定 格

送受信周波数：（12.5kHz ステップ）
1ch ～ 9ch:422.2000MHz ～ 422.3000MHz
01ch ～ 11ch:422.0500MHz ～ 422.1750MHz
中継装置使用時：10ch ～ 18ch:
送信 440.2625MHz ～ 440.3625MHz
受信 421.8125MHz ～ 421.9125MHz
12ch ～ 29ch:
送信 440.0250MHz ～ 440.2375MHz
受信 421.5750MHz ～ 421.7875MHz
電 波 型 式：F3E/F2D
通 信 方 式：単信および半複信方式
送 信 出 力：10mW 以下（電波法施行規則第6条適合）
受 信 感 度：－ 13dBμV 以下（@ 12dB SINAD）
低周波出力：60mW 以上（@ 4 Ω、60mW 時歪率 10% 以下）、電源電圧 1.5V 時
動作温度範囲：－ 10℃～＋ 50℃
定 格 電 圧：DC 1.2V
動作電圧範囲：DC 0.95V ～ 1.7V
本 体 寸 法：47.0 × 80.0 × 22.0mm（幅×高さ×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず）
本 体 重 量：FTH-314：約 83g
FTH-314L：約 85g
（ベルトクリップおよび電池を含まず）

RoHS 指令準拠
この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります

## キー操作早見表

| スイッチ / キー | 長押し | 短押し |
|---|---|---|
| MODE | – | 通話モードの切り替え（CTCSS/DCS、秘話）<br>セットメニュー項目設定（セットメニュー時） |
| ∧ | チャンネルアップの早送り | チャンネルアップ |
| ∨ | チャンネルダウンの早送り | チャンネルダウン |
| On | キーロック<br>キーロック及びディスプレイ非表示（セットメニューhd “ON” 時） | ワンタッチボリューム（セットメニュー PS“ON”時）<br>セットメニュー項目後退（セットメニュー時） |
| MODE（押しながら）→∧ | グループ /DCS モードの設定 | – |
| MODE（押しながら）→ PTT | 自動 PTT ホールド機能（セットメニュー Ph “ON” 時） | – |
| PTT（押しながら）→ MODE | コールサイントーンの送信 | – |
| On（押しながら）→ 電源スイッチ | キーロック及びディスプレイ非表示 | – |
| MODE（押しながら）→ 電源スイッチ | セットメニューの操作 | – |
| ∧（押しながら）→ 電源スイッチ | 中継機能チャンネル追加・削除 | – |
| ∨（押しながら）→ 電源スイッチ | モニター機能 | – |
| ∧ + ∨ + MODE →電源スイッチ → PTT | ファクトリーリセット | – |